

これが、中島みゆきの世界

中島みゆき

「夜会工場VOL.2」の感動が
映画館の大スクリーンに甦る

劇場版
最新作

中島みゆき

「夜会工場 VOL.2」

劇場版

2019年5月3日(金・祝) 全国ロードショー

1989年にスタートした中島みゆきのライフワーク「夜会」
過去19作品の名場面で綴る“ダイジェスト・コンサート”

中島みゆき 劇場版 第8弾

『夜会工場VOL.2』の感動が、迫力の5.1chサラウンドで大スクリーンに甦る!

世界に比類なき「夜会」過去19作からえり抜かれた名場面名曲集ダイジェストコンサート初の劇場公開。

一曲毎にこんなにめくるめく世界が変わってゆくコンサートがかつてあったらどうか。

今まで見たことのない「中島みゆきの姿」と聞いたことのない「中島みゆきの歌」。

またひとつ新しいコンサートの形が誕生した——

中島みゆきがどういうアーティストなのか、今更説明の必要はないかもしれない。日本を代表するシンガーソングライターというだけでなく、70年代・80年代・90年代・00年代と四つの時代でシングルチャート一位を獲得している唯一の女性ソロ・アーティストでもある。

アルバムでの評価が主体のシンガーソングライターの中でシングル一位の記録というのは彼女の曲がどのくらい幅広いポピュラリティを持っているかの証した。

それに加えて、他の歌手に提供した曲では一位獲得曲が2010年代も加えて五つの時代という記録も持っている。自分で歌うだけではなく作家としてそれだけ成功しているシンガーソングライターも他にいない。

なぜそれだけの実績を残せたのか。いくつもの理由がある。例えば、それぞれの時代で残してきた一位曲がどれも同じスタイルではないこともその一つだ。「わかれうた」や「悪女」のように女性心理の複雑さを歌いこんだ70年代・80年代の“女歌”“わかれ歌”というイメージは90年代以降の曲には薄い。「空と君のあいだに」や「旅人のうた」は、男女を超えた“人間歌”という広がりを持っている。「地上の星」に至っては“中高年の応援歌”である。

提供曲もしかりだ。たとえば研ナオコの「あばよ」、工藤静香の「FU-JI-TSU」「慟哭」、TOKIOの「宙船(そらふね)」、ももいろクローバーZの「泣いてもいいんだよ」。一つの時代のイメージやスタイルに留まらない。歌手の個性や特徴を生かしつつ新しいイメージを作り上げてゆく。

それでいて、歌われているのは彼女自身の作品がそうであるように“弱い人たち”や“傷ついた人たち”“名もなく報われない人たち”に向けられた揺るぎないエールであることだ。自分でも歌って

みたいと思わせるメロディーと誰もが思い当たるテーマ性。それが彼女の曲の普遍性ではないだろうか。

ただ、彼女を唯一無比な存在たらしめているのは、そうした楽曲だけにあるのではない。コンスタントに続けられているステージ活動にこそが彼女の表現者としての真骨頂だろう。

その最たるものが89年に始まった「夜会」であることは言うまでもない。彼女が原作・脚本・作詞・作曲・歌・主演、そして演出も務める約一カ月に及ぶロングラン公演は世界でもまれだ。2019年はその書き下ろしの新作「夜会VOL.20『リトル・トーキョー』」で幕を開けた。

表現者・中島みゆきの歩みは年々加速するばかりだ。

田家秀樹 (音楽評論家)



前もって買えば最大200円もお得な全国共通前売ご鑑賞券

全国「中島みゆき『夜会工場VOL.2』劇場版」上映劇場、ローソンチケットにて絶賛発売中!

上映劇場でのご購入方法 ※一部劇場によってはお取扱いがない場合がございます。予めご了承ください。 前売料金: 2,300円(税込)
購入方法については、最寄りの上映劇場の公式サイトをご確認頂くか、直接お問い合わせ下さい。 ※当日料金: 2,500円(税込)

ローソンチケットでのご購入方法
ローソン・ミニストップ店頭 Loppi もしくは、ローソンチケット (<https://l-tike.com/yakaikojo-movie/>) より、お買い求め下さい。
■Lコード: 91326 【お問い合わせ】ローソンチケット 0570-000-777 ※オペレーター対応 10:00~20:00



「中島みゆき『夜会工場 VOL.2』劇場版」上映劇場等、詳細は公式サイト yakaikojo-movie.jp にて

配給: ローソンエンタテインメント 協力: ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス ©2018 Yamaha Music Entertainment Holdings, Inc.

2019年5月3日(金・祝)

新宿ピカデリー & 丸の内ピカデリーほか
全国ロードショー!